

関西学院大学 研究成果報告

2022年 5月 6日

関西学院大学 学長殿

所属： 文学部
職名： 教授
氏名： 竹山友子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	共和制および王政復古初期の詩人キャサリン・フィリップスの社会的影響とその役割
研究実施場所	自宅
研究期間	2021年 4月 1日 ～ 2022年 3月 31日 (12ヶ月)

◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

「共和制および王政復古初期の詩人キャサリン・フィリップスの社会的影響とその役割」を課題として研究を進めた。これまで取り組んできた初期近代英国女性によるキャノンの書き換え研究の一環として、時代の変革期である清教徒革命後の共和制時代から王政復古初期（1650年代から60年代初め）に活躍したキャサリン・フィリップス（1632-1664）に焦点を当て、彼女の執筆活動、特に詩作品の社会的役割を研究した。議会派と王党派の党派を超えた人間関係を築いて執筆活動を行ったフィリップスと、彼女と親交があった聖職者ジェレミー・テイラーおよび詩人で弁護士のフランシス・フィンチとの相互間の影響関係を探った。いずれもその著作のテーマは「友情・友愛」である。フィンチはフィリップスの文芸サークル「友愛会」のメンバーで、フィリップスが示す女性同士の友情を称揚する友情論を発表している。テイラーはフィリップスの質問への回答となる論文を出版しており、二人の作品とフィリップスの詩に現れる友情観を比較検討した。特に先行研究では女性同士の友情を訴える詩群に着目して、女性間のセクシュアリティや欲望を見出そうとする傾向が見られたのに対して、本研究では女性間よりも夫婦間を含む異性間の友情をうたう詩群に焦点を当て、性別を越える友情観を考察した。

研究方法としてはまず、フィリップスの詩に現れる友情観と結婚観の対立構造を確認し、その次に古代ギリシア・ローマ時代から続く伝統的友情観を分析して、さらには初期近代の代表的思想家モンテーニュの友情観を調べた。そして、フィリップスの友情観が古代ギリシアから続く伝統的友情観に概ね基づくものの、伝統的友情観が認める性別による友情の違いに異を唱

えていることを明らかにした。

次に、フィリップスと親交のあったフィンチおよびテイラーの友情論を調べ、伝統的友情観との相違点とフィリップスの友情観との共通点および差異を明らかにした。フィンチの友情観は女性に制約が課される可能性を指摘するものの、その違いを男女の能力差で語らない。一方でテイラーの友情論は女性の友情を認めるが、女性の友情は男性に劣るとし、その違いをキリスト教に基づく男女観を反映した男女の能力差で語る。以上の伝統的友情観および初期近代著述家の友情観に照らし合わせてフィリップスの友情論を分析した結果、フィリップスが女性排他的な伝統的友情観ではなく、女性の友情つまり女性間および異性間を含む平等的な友情観を主張していることが判明する。その主張はフィリップスと交流のあった同時代の詩人フィンチに支持されるとともに彼の友情観に影響を与え、国教会牧師のテイラーからも限定的ながら認められ、さらにその回答は出版という形で公開されている。その一方でフィリップス自身は結婚に否定的な考えを詩で言明しており、その姿勢は自身の結婚生活や夫に向けた詩の内容と矛盾する。

しかしフィリップスの友情論を示す詩、親友に向けた詩および夫に宛てた詩を精査した結果、そこに共通する貨幣鑄造の奇想から、フィリップスが従来以上の立場から夫宛ての詩を書いている事実が浮かび上がる。フィリップスの結婚観は「夫は妻の頭／妻は夫の所有物」という従来の家父長制に基づく結婚には異を唱える一方で、フィンチやテイラーの友情論に垣間見える友愛と両立する結婚、夫婦が互いの友人になり得る結婚、夫婦間も含めた異性間の友情を訴える。

さらにフィリップスは自身の詩人としての力も意識しており、先人が用いた貨幣鑄造の奇想を異性愛ではなく友情をうたう詩に援用することにより、男性間だけでなく女性間そして夫婦間も含めた異性間の友情の価値および神聖さを明らかにする。その友情観および関係性を夫に対しても適用していることが判明した。

当初の研究計画では夏に、出版物からは得ることができない情報を探るべく、原稿・手稿を調べるために資料収集をすることにしていた。具体的にはフィリップスの原稿を所蔵するNational Library of Wales、オックスフォード大学ボドリアン図書館、テイラーの原稿を所蔵するケンブリッジ大学など、フィリップスおよびテイラーの原稿・手稿を所蔵する複数の図書館および大学にて文献調査や資料収集を行い、春学期で行った研究内容と関連させてまとめていく計画だったが、コロナ禍が収束しないため海外出張を断念した。そのため、予定していたフィリップス／エイブラハム・カウリー／ジェレミー・テイラーの繋がりではなく、フィリップス／フィンチ／テイラーの関係性の考察へと軌道修正した。この研究をもとに、「“My guide, life, object, friend”：キャサリン・フィリップスの詩における友情と結婚」のタイトルで関西シェイクスピア研究会9月例会にて研究発表を実施した。

発表後には二次資料のみだった部分の一次資料を収集し、さらに論を広げ、自ら体现する男女平等的友情論をもとに、フィリップスが自身の役割を広げていることを論文にまとめた。本論文は2022年度に学会誌へ投稿・発表予定である。前述の成果発表に加えて、以前学術誌で発表したフィリップス論（ジョン・ダンの奇想の書き換え）に新たな情報を加えて第七章を加筆修正するとともに終章の一部を執筆し、2022年3月30日刊行の『書きかえる女たち—初期近代英国の女性による聖書および古典の援用』（春風社）と題した著書に含めて出版した。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。